

令和元年度第1回行革推進専門部会 会議概要

1	開催日時	令和元年7月8日(月) 午後3時47分から5時06分まで				
2	開催場所	秦野市役所本庁舎4階 議会第4会議室				
3	出席者	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">委 員</td> <td>齊藤部会長、佐々木委員、大屋委員、西尾委員 【欠席】茅野委員、石塚委員</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">事務局</td> <td>行政経営課長、同課課長代理、同課担当</td> </tr> </table>	委 員	齊藤部会長、佐々木委員、大屋委員、西尾委員 【欠席】茅野委員、石塚委員	事務局	行政経営課長、同課課長代理、同課担当
	委 員	齊藤部会長、佐々木委員、大屋委員、西尾委員 【欠席】茅野委員、石塚委員				
事務局	行政経営課長、同課課長代理、同課担当					
4	議 題	(1) 第3次はだの行革推進プラン実行計画に係る進行管理、評価等について (2) その他				
5	配付資料	次第 行革推進専門部会委員名簿 資料1 第3次はだの行革推進プラン実行計画に係る進行管理、評価等について 資料1 別添1「第3次はだの行革推進プラン実行計画」進行管理実施方針 資料1 別添2「第3次はだの行革推進プラン実行計画」推進体制図 資料1 別添3 第3次はだの行革推進プラン実行計画における改革内容等の見直し方針 資料2 令和元年度における行革推進専門部会の外部評価等について 参考資料 秦野市の概要について				

6 会議概要（要点筆記）

【事務局】 行財政調査会全体会については、御協力ありがとうございました。引き続きとなりますが、行革推進専門部会を開催させていただきたいと思しますので、どうぞよろしく願いいたします。部会の会議に入る前に、資料の確認をさせていただきます。

—資料の確認—

部会の定数6名中4名の出席をいただいておりますので、過半数の出席となっております。秦野市行財政調査会規則第6条第2項の規定により会議が成立しておりますことを御報告申し上げます。

それでは、はじめに部会長に御挨拶いただき、行財政調査会規則第6条第1項の規定によって部会長が議長となりますので、進行をお任せしたいと思います。よろしく願いいたします。

【部会長】 あいさつは省略させていただきます。先ほどの全体会と同じですが、議事に移る前に、本日の会議録の署名について、規定により部会長と部会長が指名した委員1名ということで、名簿順にお願いしたいと思います。

議事(1) 第3次はだの行革推進プラン実行計画に係る進行管理、評価等について

【部会長】 第3次はだの行革推進プラン実行計画に係る進行管理、評価等について事務局から説明をお願いします。

【事務局】 一資料1、2 説明一

【部会長】 ありがとうございます。行革推進専門部会で、今年度はどのようなテーマで取り組んでいくか説明がありました。今のはだの行革推進プラン実行計画の進行管理ということと、次期はだの行革推進プランの在り方を含めて検討していくということがあるわけですが、全体的に何か御質問や御意見はありますか。

我々の方では、第3次はだの行革推進プラン実行計画の総括的な評価ということで、6月頃に自己評価、10月頃に内部評価ということですか。

【事務局】 今年は、市議会選挙が8月25日にありますので、選挙後、9月中旬頃に議会が開会される予定です。これは決算を審議する議会となります。議会が終わって落ち着いた頃に内部評価を行う予定となり、自己評価から日程が開いてしまうのですが、10月中旬頃に内部評価をとりまとめたものをお示する形を予定しています。

【部会長】 現状のはだの行革推進プラン実行計画の進行管理の評価と、次期はだの行革推進プランの在り方の検討は、同時並行で進めていくのですよね。

【事務局】 はい。平成30年度の取組に対する評価をしながら、今年度の10月頃になると、今年度の取組の動きが分かってきます。昨年度の部会の中で、例えば、今年度4月以降に取り組んでいるけれど、評価においては、その取組が反映できていないというタイムラグが生じていることもあるため、それを含めて評価すべきだという御意見をいただいています。

3年半くらい経った状況というものが出てくる中で、それを踏まえて、今回の改革内容は一般的な行財政改革の内容となっていると思いますので、この内容をどう変えていけるのかというところで、市長が変わったこともありますので、

市長の想いも出てくる可能性もあります。行財政経営最適化専門部会で議論する職員最適化計画に絡むような話も多く出てくるのではないかと思います。

また、今年度は、公の施設の指定管理の導入に向けた検討も併せてしていきたいと思います。秦野市の場合は、文化会館など直営でやっている部分をどう指定管理にできるのか、または、既に指定管理で運営している富士見の湯の経営状況や効果などの評価を踏まえて、検討していきたいと考えています。これを次のプランにどのように活かすか、すぐに指定管理を導入できないため、いつまでにどのように施設を改修し指定管理を導入するか探していきたいと事務局でも考えておりますので、そのあたりも資料をまとめますので、御意見いただければと思います。

【部会長】 指定管理の総括のようなものは、いつ頃出てくるのですか。

【事務局】 施設の再配置を含めて検討しています。今後、非常勤職員や特定職員が会計年度任用職員に移行すると、同一賃金同一労働となるため、確実に今よりコストがかかるようになります。

再配置計画の中では、施設の修繕を含めて考えるわけですが、担当課の方では、かなり施設の年数も古くなって、例えば文化会館は大規模な修繕が必要で、それが終わらないと指定管理は導入できないと、かなり後ろ向きな考え方を持っています。それを何とか打ち破れないかと、公共施設マネジメント担当で関係課を集めて検討するなど、少し、取組を進めているところです。コストが安くなるとは限らないですが、職員の人件費ということで、目に見えてくる部分はあると思います。

今年度は、一定の方向性について、いつ頃、指定管理を導入するかという方向性を内部で出していきたいと考えており、次期プランに反映できるようにしたいと思っています。

【部会長】 ありがとうございます。何か御意見等ございますか。

【委員】 資料1をみると、改革の5つの視点ということで、1から4までの視点は、公の施設の指定管理や使用料や補助金の見直しなど、一部テーマを取り出して議論をしてきたわけですが、5の「質的改革への取組み」という面でみると、あまり真正面から深い議論がされていないと思います。そのあたりの議論をした方が良いのか、基本的には、行財政経営最適化専門部会にお任せなのか、そのあたりのスタンスをどのように考えていますでしょうか。

【事務局】 「質を高める」という改革では、人材育成ということで、「次世代

育成アカデミーの推進」と「人事評価制度の見直し」の2項目ありますが、次世代育成アカデミーは取組が進んでいますが、人事評価制度の見直しについては進んでいないという状況がありまして、これについては、内部事務のことなので、遅れることのないようにという評価を受けておりますので、取り組んでいくべきだと思っていますので、改めて御意見をいただければと思います。

「市民サービスの向上」という改革では、「窓口サービスの充実」ということで、マイナンバーカードを利用してコンビニエンスストアで住民票や印鑑登録証明書などの発行を令和3年の1月から開始するという方向性があります。新しいサービスが加わることで、今までやっていたサービスの中で削れるものも出てくるのではないかとという視点を持って、検討していきたいと思っています。

「電子申請サービスの拡充」では、市民の方が市役所に来なくても手続きができるという時代に段々と進んでいくと思っていますので、そういった情報システム化を進めていく中で、各市民窓口部署も含めて検討する必要があるだろうと考えておりますので、このあたりの進捗状況が、今のままで良いのかという部分も御意見をいただければと思います。

この改革項目の中には、「公立幼稚園・保育園のこども園化」というものがあります。今年度10月から幼児教育無償化が始まりますので、今の公立幼稚園をそのまま維持すべきなのか、必要がなくなってくるのかということも、新しい視点で議論がでてくるところです。

別な話になりますが、公共施設再配置計画の後期基本計画が令和2年度末までとなりますので、令和3年度から新しい10年間の基本計画を策定するにあたって、市長としては、市が一方的に策定するだけでなく、市民の意見を聞くために、こういうプランや考えがあるのだということを積極的に情報公開し、意見を求めて色々な議論をした方が良いというお考えがありますので、場合によっては、整理しながら御意見をいただきたいと思います。これは、今後の進め方によっても変わってくると思いますが、現在、計画のたたき台を考えておりますので、公共施設再配置は長いスパンの話となりますので、市民にすぐに影響あるものではないですが、10年という期間となりますと、より身近なものとなりますので、市民の方によっては、意見を出してくれるのではないかと思います。それによって、意見がまとまらないことや計画が多少遅れることがあるかもしれませんが、市民の意見をきいて良いものにしていきたいと、市長も考えています。単年度で決まるものでもありませんので、今年度、来年度で、引き続き、考えていきたいと思っています。

【委員】 前期で2か年かけて議論してきたことが、あまり反映されていないのではないかと気がします。例えば、本日ご説明いただいた実施方針を改定しているのが、平成30年5月1日からですから、そうすると、昨年度、議論した

内容が反映されていないと思います。29年度に議論したことも反映されているかという、それほど大きくは反映されていないような気がします。

例えば、進行管理の在り方も、昨年度、かなり深く議論して改めるべきだという話になって、効果額だけでなく、目標設定していくべきだということで、指標を設定したり、進行管理の工程表も丸(○)や矢印(⇒)だけでなく、何をすべきか明確にした方がしっかりと進行管理ができるという話で、かなり改善の手法が出ていたという認識がありましたので、当然、次の実行計画には反映されると思っていましたので、今回拝見した実行計画も実行管理の実施方針も、私が、2年前に説明を受けた内容とほとんど変わっていないなという印象を受けました。そうすると、また、2年かけて議論したことと同じ議論をやり直さないといけないのかという感じがしました。

それから、これからの行革や地域経営の在り方で踏まえるべきこととして、昨年度の報告書の中で提言していますので、それもまた一から議論となるのか、少なくとも、昨年度までの行革推進専門部会で議論があったことを叩き直しながら議論をしていかないと、体制が変わったことは承知していますが、継続性、発展性を持ってやっていかないといけないと感じました。

【事務局】 基本方針は大きく変わっていないのですが、各課等へ進行状況を照会するにあたっては、いただいた御意見を踏まえて、単に取組が進行強化だけでなく、根本的な課題があるのであれば、各課等で評価するときに意見を付してもらって、場合によっては、見直しが困難であれば、その理由を提出してもらうという形にしています。

【委員】 進行管理の表もかなり細かい目標設定をしていたと思いますが、元に戻ってしまっていてはもったいないと思いました。

【事務局】 それは、進行管理シートの中で反映していく予定で進めています。

【委員】 改革項目が平成28年度当時のものなので、かなり古くなっているといえますか、新しい要素が出てきていると思います。5年計画なので、5年間は進行管理しないといけないのは分かりますが、時間がかかるものもあれば、すぐ終わるものもあって、単に、5年前に決めた改革項目の進行管理でなく、前向きに、終わったものは外して、新しいものを取り入れるというような検討を、今年度はしても良いのではないかと思います。

【部会長】 5年計画なので、5年は進行管理をずるずるとやっているというよりは、今の御指摘のとおり、1年や2年で内容をもっと変えてやっていかなけれ

ばならないものも出てきていると思います。例えば、5年計画だけど3年目で、担当から、当初はこういう計画にしていたけれど、状況が変わって計画を変えなければならぬというような意見が出てくれば良いですが、そうでないと、毎年度、同じ評価を繰り返しているのかなという印象になります。

【事務局】 担当課で、進行管理シートの評価を昨年度と同じでいいやという意識でいてしまわれると困ります。

【部会長】 そこで、ヒアリングは今回ないのかなと思いましたが、同じ取組をやっているけれど、内容について、より質というか、より時代に合わせて、変化・変更をしているという状況を説明していかないと、ただ進行管理シートをもらって、また、繰り返し同じ評価をやるかというような形になってしまっているように感じます。そこが一番の問題かと思います。先ほど、文化会館のお話を聞いていて、とてもそう思います。

文化会館については、ずっと話題が出ている中で、やっぱり難しいこととか課題が多いこともあるのですが、どこかで切り込んでいかないと、ちょっと待ってくれと言っていることが、とても多い気がします。本気になっているとは思いますが、マンネリ化して継続していれば、まだ許されるのではないかという意識があるようですが、改革は待ったなしの状況です。そういったところで、表現を変えなければならなかったり、取組内容をもっと明確にしたりというところをやらないと難しいと思います。

はっきり言って、ヒアリングをしてどうなっているんだというところを聞いてみても良いと思いますが、あまり変わらないお考えをお持ちのところもあるのかなと、話を聞いていて思いました。

市長さんがおっしゃっているように、市民を巻き込みことは、非常に必要だと思います。例えば、市の広報誌は、最近、とても良くなって、多くの市民の方が見ていると思います。しかし、公共施設再配置や行革の関係で、市民の方がどれだけ自分のこととして考えているのか、使用料の値上げをすれば反対すると思いますが、多分、自分のこととして考えていないと思います。市民が、どれだけ自分のこととして考えているのか見極めない限り、その前に市民に意見を聞いても、意見がまとまらないと思います。その前に、関心がそれほど広がっていないから、意見が出てこないのではないかと思います。

そうすると、本当に市民を巻き込んで、市民皆さんの問題ですよ、一緒に考える課題であり、テーマですよというところを、どう理解してもらえるかだと思います。こちらでまとめましたので、さあどうですかと意見を求めたとしても、市民は、ぽかんとするだけだと思います。最初の頃から、今年度は、こういう風に行財政改革という視点で、地方の行政運営の在り方について、質を含めて考えて

いくけれど、市民と一緒に考えていきたいですと、細かく情報を出して行って、現在、こんな形で検討していて、こういった結果ですけれど、どうですか、というような形にすると、問題意識を持った市民の方が少し乗ってくると思います。市民の方を巻き込むのであれば、助走からやっていかないと、ゴールがみえたところで、ぱっと出して、さあ、どうですかと言っても、それでいいんじゃないですか、で終わってしまうと思います。

一方で、廃止や値上げは、説明しても、その過程が薄いと、何故廃止するのか、値上げするのかと反対します。増やすや値下げするには、反対はないわけです。それは、市民の方が、ほとんど自分のこと以外は関心がないからです。そこをどう巻き込むかは、とても大変だと思います。もっと身近なところで、例えば、高齢者がたくさん集まる場や子育てするお母さんがたくさん集まる場に、市が出前で行って説明するくらいやらないと、身のある議論はできないかもしれません。事務局では、どのようにお考えですか。

【事務局】 おっしゃるとおりです。公共施設再配置計画の新しい見直しでも、各小学校区単位の中で考えると施設を集約した方が良いという議論がある中で、地域に出向いて行って、地域ミーティングのようなところで説明しても、施設の統合に関しては、まずは反対だという意見が出て、統合は20年後ですという話になると、我関せずになってしまいます。何故、統合が必要なのかというところをどう説明していくか、市民の方から統合が必要だという意見が出るのが、一番、望ましいと考えています。それには、かなりの労力を使いますし、簡単にはできないものですが、だからといって、やらなくていいものではありませんし、やらなければならない話であって、行政がこう決めましたと説明するだけでは、できないことだということは、我々も考えているところです。そこは、まさに、おっしゃる通りだと思います。

【委員】 私も、その通りだと思います。この行財政改革が古いと思うのは、内向きな改革になっているところだと思います。行政の中身を5つの視点でどう改革するかという内容になっていて、今の行財政改革は、行政の中だけではなく、市民から、いかに理解と協力を得られてやっていくかという観点が、必要不可欠だと思います。その視点が、この計画には欠けていると思います。例えば、5つの視点だけで評価するのではなく、市民との協働という形で、もう一度、計画を点検してみるといった視点があると、新しい取組となって、次の行革にもつながっていくのではないかと思います。

【部会長】 それを考えていくべきだと思います。協働でも良いですが、どうすれば、自分のこととして考えてもらえるかだと思います。はっきり言えば、多く

の市民は関心がないので、例えば、子育て世代だったら保育園、高齢者だったら健康づくりやケアについて関心があるけれど、公共施設再配置について、これからの公的施設の管理をどうするかと言われても困ると思います。

逆に言えば、世帯や地域など、より身近なところから攻めていって、全体のそういった施設の在り方について繋げていくという、分かりやすいところから、その人に関係するところから話していって、そういった施設を市だけに任せてはいけないのかな、自分達でやっていかないといけないのかなという方向になると良いと思います。

今までは、簡単に削れる行財政改革の時代だったけれど、削れる時代ではない、質を高めながら適正に効率的にという時代なので、そういった問題意識をどう市民に持ってもらうのかというところしかないと思います。

【事務局】 内向きと外向きと、両方を上手に組み合わせて取り組む必要があると思います。そのために、職員全員がそういった意識を持って、市民へ情報発信していくとことに結び付けると、新しい行財政改革になると思います。

【部会長】 今までと違う要素を取り入れていかないといけないことです。単に、自己評価、内部評価、外部評価ということだけではないと思います。それはそれで必要だけど、質的な向上という面で見ると、もっと違うチャレンジをしないといけないと思います。

【事務局】 そのあたりは、また次回、御意見をいただければと思います。

【委員】 自己評価にあたっての評価の調査票は、これから配るのですか。

【事務局】 はい、今回お配りしている実行計画は大枠のものになりますので、細かい実行方針や具体的な取組などは、進行管理シートにあります。各課等に自己評価について照会する際には、今回の御意見を踏まえたいと思います。

【委員】 中間総括になりますので、次期計画を見直す上で、その要素をもう一度洗い出すということ、各課でも、しっかりとやっていただく必要があると思います。効果額でずっと押し進めてきたところの限界について、これから自分達で新しく事業を行ったり、事業を継続するにしても、質的な向上を見込んでいきたいというところを、少し、各課に聞いていただいて、次期計画に活かしていくという段取りも必要だと思います。

今までは、分母のところ、人件費や物件費などを削るという部分で効果を出すのが限界になって、今度は、分子のところ、効果の部分について、質的なと

ころをどう上げていくか考えないといけないと思います。市民参加を取り入れることによって、効果は同じかもしれないけれど、市民参加の満足度が上がっていくといったロジックを考えていく必要があると思います。

市民参加の他に、その要素や抱えている現状の問題が、どこかに隠れている可能性があるかもしれないので、それを引き出すように、調査票に欄を設けるといふのも、一つのやり方だと思います。

【部会長】 次に繋がる内容を織り込んで、書きながら気づいてもらうなど、進行管理シートの工夫はあるかもしれません。

【事務局】 総合計画後期基本計画の中で足りない金額を生み出すために、目標効果額を捻り出すという内向きの改革で、金額を削る部分に注力していた部分がありました。今回の市民協働について御意見をいただいて、確かに弱い部分があったと思いますので、これから各課等にも聞いてみたいと思います。

【委員】 効率よくやっていただけたら良いと思います。

【委員】 次の計画の考え方や新しい視点に繋がっていくやり方を工夫していくのが良いという中で、昨年度の報告書で、今後の新しい行財政運営を考えていく中で視点がいくつか出ていると思います。例えば、技術的なICTの話やシェアリングの話ですとか出ている中で、今の業務を見直すと新しいものが出てくると思いますので、それが進行管理の中でできると良いと思います。

【部会長】 ぜひ工夫していただければと思います。

【委員】 誰がどの目線でというものがあって、市民の目線なのかというところは、非常に大事だと思います。今は、PDCAでCをどうするかというところでは、つまずいていて、大事なものは、Aをどうするかだと思います。一番良いのは、内部で総括できていて、次の動きをこの5年間でやっていただくことです。5年間で総括して6年目でやるというのは、遅いと思います。そうでないと、5年間で何をやってきたのか、最後の6年目で帳尻りを合わせたのではないかと思われてしまいます。5年間の中でチェックまでやって、次のアクションを起こすぞとなれば、我々のような意見も必要ないし、市民の声も、それほど必要ではないと思います。

民間でも、プロジェクトを何回かやって上手くいかなくて、やり方を変えても上手くいかなければ、あっさりばっさり諦めることをしています。やるべきこととやらないことを明確にすることは、小さい会社でもやっています。ずっと、そ

のままになっているものがあるのは、どうなのかと正直、思うところがあります。

チェックをどうするか、1年間検討していく中で、我々の意見だけで済むのかどうかというのがあると思います。どの目線でと考えると、市民の目線は大事だと思います。例えば、地区別懇談会などの場で、意見としてあがってくるものを見ることはできるのでしょうか。

【事務局】 地区別懇談会は、どうしても自治会単位で自分達の困っていることを取り上げることになりますので、そういった場で、こういう意見を聞くことはあまりありません。

例えば、使用料の値上げというようなものであれば、やることもあります。一番初めの平成16年度のはだの行革推進プランの策定時は、タウンミーティングを実施して、こういった改革を進めていきますという意思表示をしたことはありました。それ以降は、内部的なところで検討しています。

【部会長】 それを今回は、市長もおっしゃっていた、市民を巻き込んでというところでやっていこうと思うのなら、かなり工夫しないとイケないと思います。

【事務局】 総合計画の策定を始めたところで、その中では、現在、地区別懇談会を実施していますが、秋頃に、タウンミーティングを予定しています。

また、市民のワークショップということで、市内在住在勤の方、子育て世代の方、学生の方など参加していただけるように、総合政策課の方で仕掛けていますが、市民の反応が今一つで苦労しているところです。

市政懇談会、まちづくり懇談会に参加していない人で参加していただきたいと動いていますが、参加する市民がどのくらいいるのか、参加する市民を探すのが大変なところもあります。

【部会長】 募集ではなく、行政が出向くという必要があると思います。子育てしているサークルだって市内にありますし、公民館で健康教室をしているところだってあります。

例えば、30人という市民の参加を募集しても、半分来るかどうか、あるいは、1ケタかもしれない。募集をしても、市民は、自分には関係ないと思って参加しません。総合計画を作るのに、市民の声を聞かなければいけないという発想では、市民は集まらないと思います。募集ではなく、聞きに行くことが必要だと思います。子育て支援や就労に悩んでいる人や色んな市民がいる中で、出前で、聞きに行かない限り、市民を巻き込むことはできないと思います。

ワークショップやワールドカフェなど、良い手法はたくさんありますが、待ち

の姿勢は古いと思います。時間のある人が来るという形で、様々な人が集まることは難しいと思います。待っていたら、特定の人だけが来て、形式的に聞いたという内容だけが残って、どう活かすかというところまでは難しいと思います。出前だと思います。

【事務局】 自治会の出前講座に行くとき色んなことを聞かれますし、それに対してどれくらい市民のためになるのか説明すると、市民もメリットがあれば、頑張りたいとおっしゃるので、直接、行って市民と対話することは必要だと思います。

【部会長】 市民協働に関する課は、各課に対して、これからの事業展開は協働・連携をしなければ駄目で、そういった協働・連携を各課がどうしているか情報を持っていることは大事だと思います。

今の市民協働は、市民からの申請事業と行政の提供事業をどうしますかと意見を募集しているだけのような気がします。それは、協働ではなく、単に、行政の仕事をしていますという姿勢にしか見えない気がします。本当の協働をするのであれば、各課がやっている事業の中で、協働できるものがたくさんあるような気がします。福祉や障害や高齢者に関する事など、連携できる部分がたくさんあると思います。おそらく、市民協働に関する課の仕事、福祉の仕事、高齢者に関する仕事は、横の繋がりをどう考慮しているのか、考慮していないのではないかと思います。

例えば、障害の仕事が法律に基づいて業務をしているわけですが、本当は、一緒に出来たら良いなと思っている部分があるかもしれないのに、やらないことはあると思います。それは、横の繋がりが無いからで、市民協働に関する課が、市民協働とは何かを考えて、行政の中に市民を巻き込むという仕事をしてもらわないと、モデル事業だけやっていくような、この事業メニューで合う人がいませんか、と募集するだけでは、広がりが無いと思います。

協働と連携をどういった形で進めていくのが良いのか、行財政改革という言葉は難しく、市民に馴染みにくいけれど、連携・協働ということで何かしらをやっていくと、絶対に、効率化というところで、繋がるものがたくさん出てくると思います。市民にお願いする部分が出てきて、事業を変えていくということです。今までのやり方を変えない限り、同じことになると思います。

そのあたりが、今年度、少しでも見えてくると良いと思います。市民として、言わせていただきました。

【委員】 市民参加は必要だと思います。NPO法が1998年にできて、昨年度で、ちょうど20年が経ちますが、NPOや市民活動の中で、かなり継続性が危ぶまれているものや消えてしまうものもあるような状況です。参加というフ

ューズはあるのですが、それをいかに持続させていくかという部分もあって、非常に難しいと思います。自治会に法人格を持たせて、市が地元の業務を任せるとというのが、一つの青写真になると思います。

責任を持たせるのであれば、きちんと財源を手当てする必要があると思います。そこまでを制度設計しないと、単なる行政の仕事を押し付けるだけで、長続きしないと思います。両方のデザインをどうするか考える必要があると思います。

この行革プランで出た、何か果実の一定分を、地元に対して、箱は減らすけれど、ソフトの部分は自分達で自由に考えてくださいというように、セットで考えないといけないと思います。単に、市民が参加して意見をいただきましたというような時代は、もう過ぎているような気がします。地域によっても特性があるので分かりませんが、そういう面もあると思います。

【部会長】 市民を巻き込むとおっしゃったので、敢えて意見を出しましたが、難しいと思います。ドラスティックに今までのやり方を変えていったり、行政の中で協働を進めていかないといけないと思います。

先ほどのお話にもあったように、地域に任せるというのであれば、責任を持って、活動費まで賄うというような、枠組みを変えていくというイメージがあって、だから、質を高めるんだというところにまでなれば、次期プランへの提言もあるけれど、今までと同じように、やりながら何か見つけて欲しいとなると、今までと同じままになってしまう気がします。

構造を変えるという、勇気と決断を持ってほしいと思います。各課に行って、あるいは、地域に行って、どうするんだと対話しない限り、進んでいかないと思います。ぜひ、考えていただきたいと思います。

【委員】 先ほど、P D C Aの話がありましたけれど、チェックやアクションを有効に動かすためには、適切なプランが設定されていないといけないわけで、最初のPがガタガタだと、P D C Aサイクルは回らないので、Pはとても大事だと思います。

今までの行革プランは、このPの部分で、財政効果額だけは設定されていますが、それ以外の指標が足りなかったもので、これからの行革プランは、財政効果額以外のところで、どれだけアウトカムを出せるのか、考えていかないといけないと思います。

出来れば、そのアウトカムに対して、達成度を測るための指標を設定できれば、P D C Aが有効にまわっていくと思います。その時に、PからP D C Aが始まっていくわけですが、その前に、Pを設定するためのアセスメントや事前評価などが大切で、そうすると、前のプランの事後評価が、次のプランの事前評価になる

わけです。

その観点を持ちながら、次のプランのアウトカムとその指標を議論できればと思います。

【部会長】 PDCAサイクルとして、ぐるぐる回っていくことを考えることと、財政効果のような量的なもの以外の何か、質的なものの指標を考えていくということが必要です。

【委員】 私が少し知っているところだと、ある自治体では、目標値を市民参加型で決めるという試みをした自治体もありますので、それも一つの方法だと思います。

シルバー民主主義という、高齢者の方は、比較的、市で募集したものに参加することは多いですが、働いている方、若い方、子育て現役世代の方などは、参加しにくい状況があると思います。例えば、そういった多世代が関わるような事業や施設に関しては、市民参加型を積極的に導入するなど、内部的に、ある程度の方向性を持った上で、全てはできませんから、ここだけは、市民参加型でやって目標値を決めていかなければならないという部分と、住み分けをした方が良いと思います。

ある自治体の統一地方選挙では、世代別の投票率をみると、10代で10%、20代で20%と、世代別に10%ずつ比例して増えるという状況があったそうです。この傾向は、大体、どこの自治体も同じようなことだと思いますので、その逆比例となるようなものを、どのように制度設計していくか、市で考えた方が良いと思います。これが、次の新しいプランのやり方にも関わってくると思います。

【部会長】 色々な工夫と発想があるので、皆で考えていきましょう。するどい切り口を1点や2点は持っていないと、マンネリ化してしまいますので、そういった方向性でやっていけたらと思います。

【委員】 一方で、改革はスピード感が大事だと思いますので、来年度、1年をかけて計画を作るのは、遅いのではないかと思います。今年度、新たな観点で見直すのであれば、来年度から、新しい計画を始めるようなスピード感がないと、ある程度、スケジュール感があるのかもしれませんが、来年1年をかけて計画を作っている間に、その内容が、また、陳腐化してしまわないかと思います。

【部会長】 何となく、1年をかけて計画を作ると、安心かなと思うかもしれませんが、危機感を持って、状況がどんどん変わっていく中で、1年後にやりまし

ようとなっても、皆もうやっていますよ、無理ですよ、遅れていますよ、などあり得るわけです。

【事務局】 そういった意味では、根幹部分は、今年度にある程度を固めながら、状況の変化をみながら、令和3年度にすぐスタートができるような、新たな計画が出来れば良いと思います。

【部会長】 プランを作るというより、実践を可能にする計画を作っていくことだと思います。5年間の計画を作ると安心するような、5年間の計画で良いんだなど、だんだんとなってしまっていて、計画を作る前も、我々が1年かけて作れば良いんだなどと思うのは、時代遅れになっていると思います。

これからの計画作りの在り方を変えていく必要もあると思います。すぐに作れるようなら、すぐに作って、その時点の取組を進めていっても良いと思います。その方が、実効性があるかもしれません。

【委員】 進行管理の表をみると、1年ごとのローリングをするということですが、そこが、あまりローリングされていないと思いますので、毎年度、新しい要素を取り入れられていけるものになると良いと思います。

【部会長】 全部やるのは難しいけれど、そろそろ、新しい発想でやることを考えた方が良いと思います。大幅に変えることは、すぐにはできないかもしれませんが、基本的には、計画の立て方も進め方も同じようにやっていくのではなく、新しい切り口があれば、どんどん変えて進めていく、成果が上がれば、どんどんフィードバックしていくと良いと思います。

状況によっては、市民の方に、この部門を考えてもらおうなどあるかもしれないと思います。

議事(2) その他

— 意見なし —

【部会長】 本日は以上で終わります。ありがとうございました。

— 閉会 —